いまばり暮らしの編集室設置のご提案

12の地域を繋ぎ、今治のアイデンティティを再定義する編集装置

2026年1月29日

本提案の全体像

01 背景

今治市には「i.i.imabari」をはじめとした様々なブランドやコピー、そしてホームページやSNSが多数存在していますが、全体像が不透明で情報が分散している状況です。

02 課題

多種多様な展開をしているため、情報全体像が不透明で情報が分散している状況です。　市外向けの「入口メディア」が欠如しており、合併後も残る旧12市町村の心理的分断が一体感の醸成を妨げています。

03 解決策

官民連携の常設組織「いまばり暮らしの編集室」を設置し、既存情報の整理・編集を専門に行います。そして「入口メディア」となる冊子を年２冊刊行します。

現状分析

多様なブランド・コピー・媒体が展開

今治市発のチャネルが多岐に渡る

- i.i.imabari
- IMABALINA
- imabalist
- なんかいいな、今治。
- 今治時間で、生きていく。
- 今治市ホームページ
- ミライマバリ
- MEQQE
- いまこそimabari
- 広報いまばり
- 11の支所だより
- 今治スタイル
- 各種観光パンフレット
- 各SNSアカウント
- 未来への新しい風
- イ行ノート

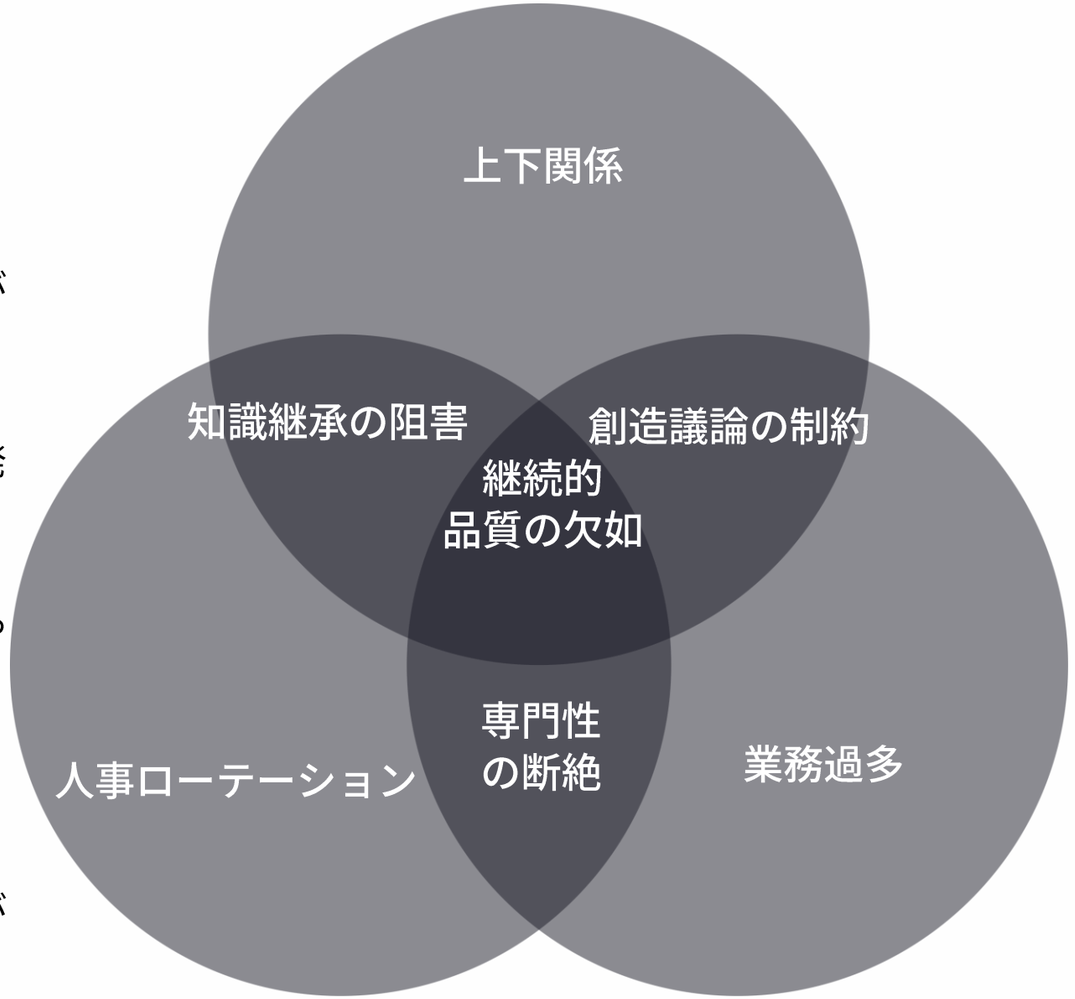
見えにくい全体像

ホームページ、LINE、Instagram、各種パンフレット、市政番組など、様々な情報チャネルがありますが、多くは各課各施策が独立して動いているため、相乗効果が発揮しきれず、市民や市外の方にとって情報の全体像が把握困難な状況です。

行政組織が抱えるジレンマ

今治市ひいてはどの自治体でも抱えている構造的な課題が存在します。

- 基本年度単位で事業を行うため成果が見えにくい取り組みがしずらい。成果の見えやすいイベントが多くなってしまう
- ２年程度を目安に異動があるためクオリティやモチベーションの維持が難しい
- 基本課ごとに動くために、プロモーションやメディアが同時多発的に発生してしまうことも
- 明確な階級構造があるが故に、最終的には上長の好みになってしまいやすい。結果担当者は伝言係となり思考停止に陥ってしまうことも
- 業務が多いため本業務以外の取り組みに力を入れることが難しい
- 年度の事業を抱えているため、過去の取り組みの検証や整理にまで手が回らない



これらの構造的課題により、せっかくの広報ノウハウや統一されたトーンが蓄積されず、継続的な品質維持が難しい状況です。

⚠ 課題

解決したい３つの課題

1

幅広く展開される施策の整理

これまで様々な取り組みをしてきたことで見えにくくなってしまった「今治市」の全体像をクリアにします。

2

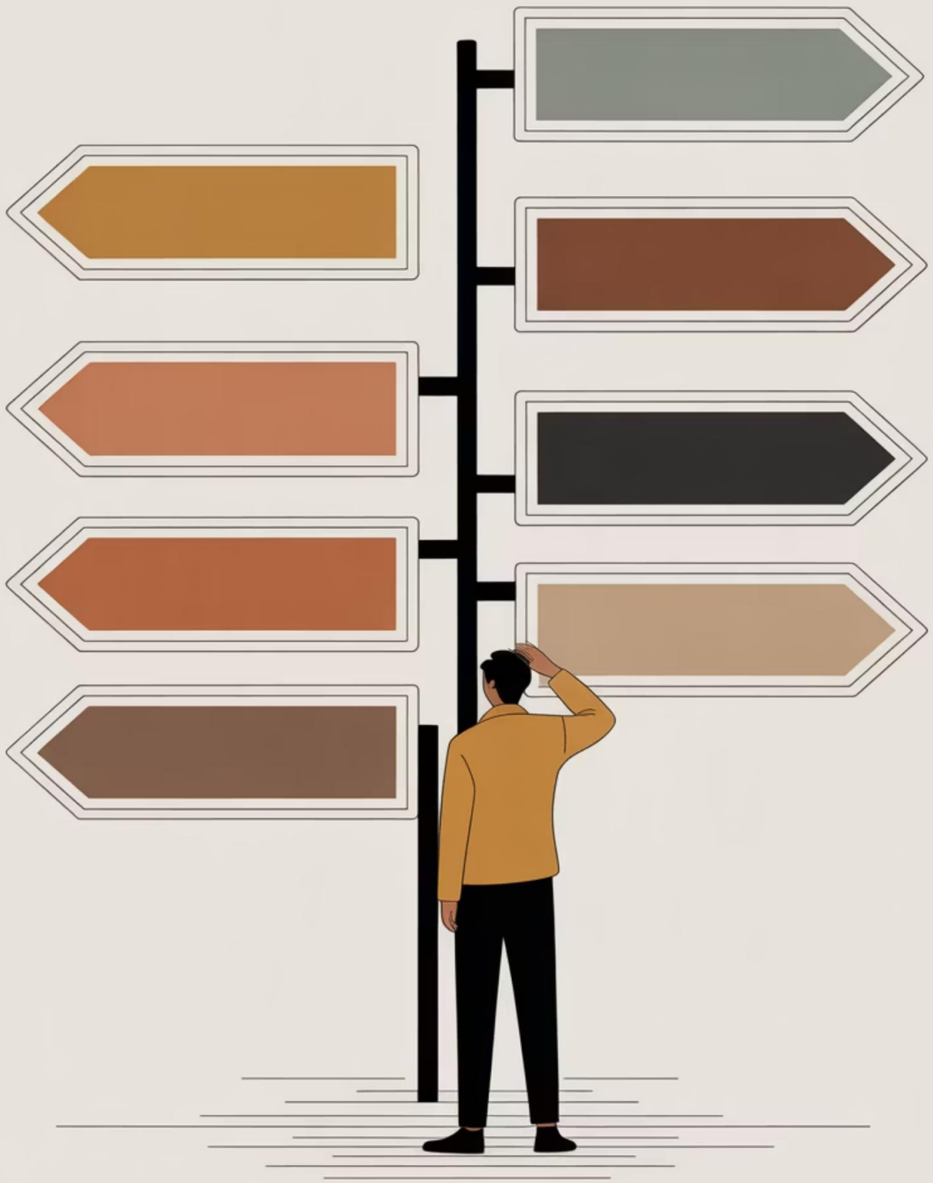
質の維持と継続

市役所の仕組み上難しかった継続と質の維持を官民連携用いて解決を目指します。

3

旧12市町村のつながり強化

2ヵ年にわたり取り組んできた合併20周年記念事業の流れを汲んだ企画を立ち上げることで、今後も永続的につながりを育んでいきます。



「創造」から「編集」へ

新しく生み出す　＜　今ある情報資源を大切に編集する

戦略の転換

施策も素材も人も「既に十分ある」のが今治市の実情です。足りないのは「整理」と「編集」の機能であり、新規に創造するのではなく、既存資源を最大限に活かす戦略が求められています。

基盤構築の重要性

担当者が変わっても「ぶれない」情報編集基盤(OS)を構築することで、長期的視点での品質維持と、組織としての記憶の蓄積が可能になります。

解決策

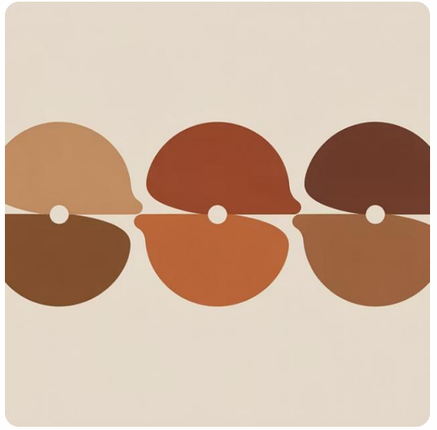
いまばり暮らしの編集室

フラットな官民連携体制

市職員1〜3名と民間専門家2名の計3~5名程度による対等な協働体制。上下関係のないフラットな構造が、自由で創造的な議論を可能にします。

編集に特化した役割

既存情報の再構成、各課・支所からの内部情報収集、ブランドトーンの管理を専門に担当。新規制作ではなく、整理と編集に注力します。



継続性の確保

民間枠は人事異動がないため、長期的視点でのクオリティ維持とノウハウの蓄積が可能。組織の記憶装置として機能します。

MEMBER

福地 立憲

くろごま団地
リッケンファクトリーデザイン

2015年より個人デザイン事務所を運営しながら、商店街や地域の活動に携わる。2017年より地元埼玉県草加市のまちづくりに参画し空き家の利活用に取り組む。
2022年に今治市に移住し地域おこし協力隊に着任。中心市街地の活性化に向けた取り組みを行った後、2025年今治商店街内に小さな複合施設「くろごま団地」をオープン。

竹野 はるか

森
今治経済新聞

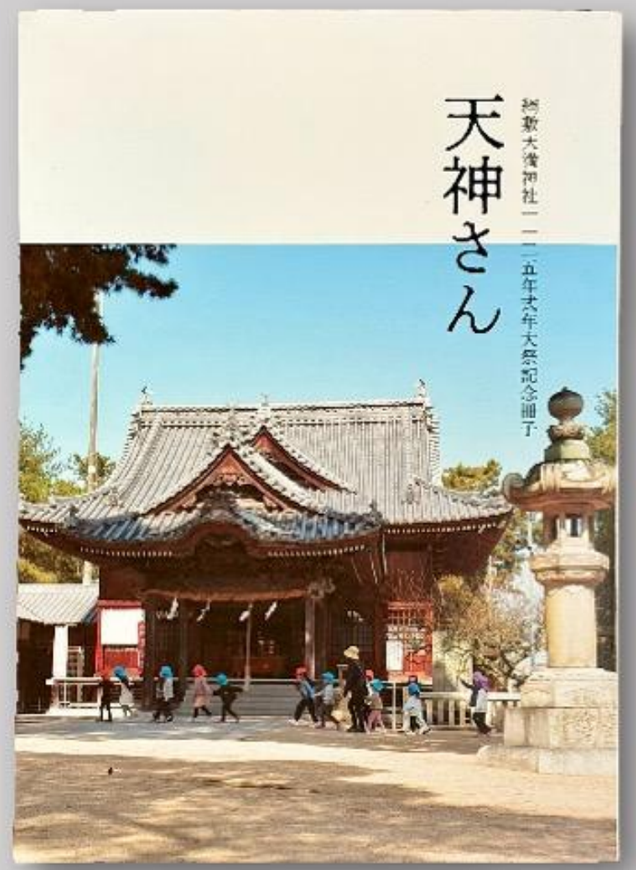
今治・米屋町の“遊べる古本カフェショップ”「森」店長。そのほか、今治ホホホ座などの運営に携わる。大学卒業後、（株）エス・ピー・シーに入社。雑誌『マチボン』の企画・編集をはじめ、新卒・中途の人材採用支援や広報ツール制作、自治体のブランディングやコンテンツ制作、イベント企画、ふるさと納税支援などを行う。その後、合同会社FOLKSに入社し今治市に移住。「森」の立ち上げに参画しさまざまな企画・イベント等を行いながら、フリーのライター・編集者としても活動している。

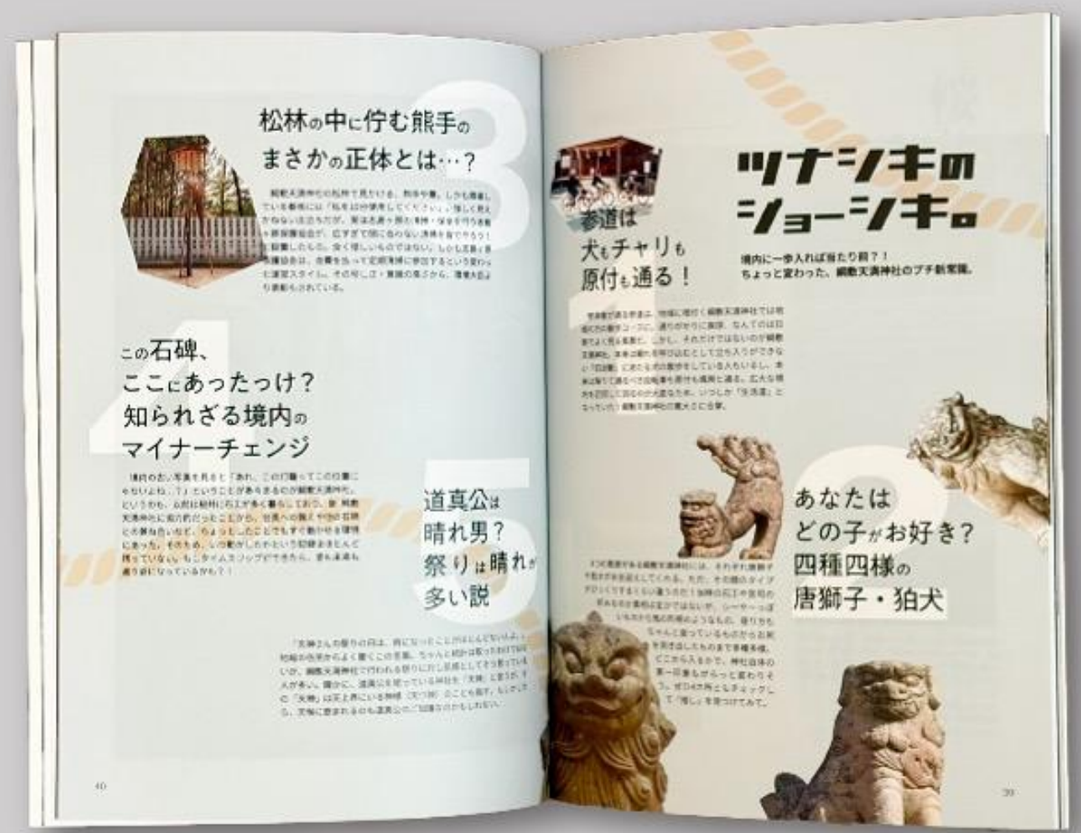
＋

今治市役所若手職員

参加希望者１～３名程度

私たちの実績





綱敷天満神社の1125年式年大祭記念冊子

いまばり暮らしの編集室の役割分担

福地・竹野

- 冊子のデザイン、編集、原稿作成作業
- 追加の取材、撮影

- **月２回定例会議**

  既存施策の整理編集

  冊子の企画会議

  デザイン検討会議

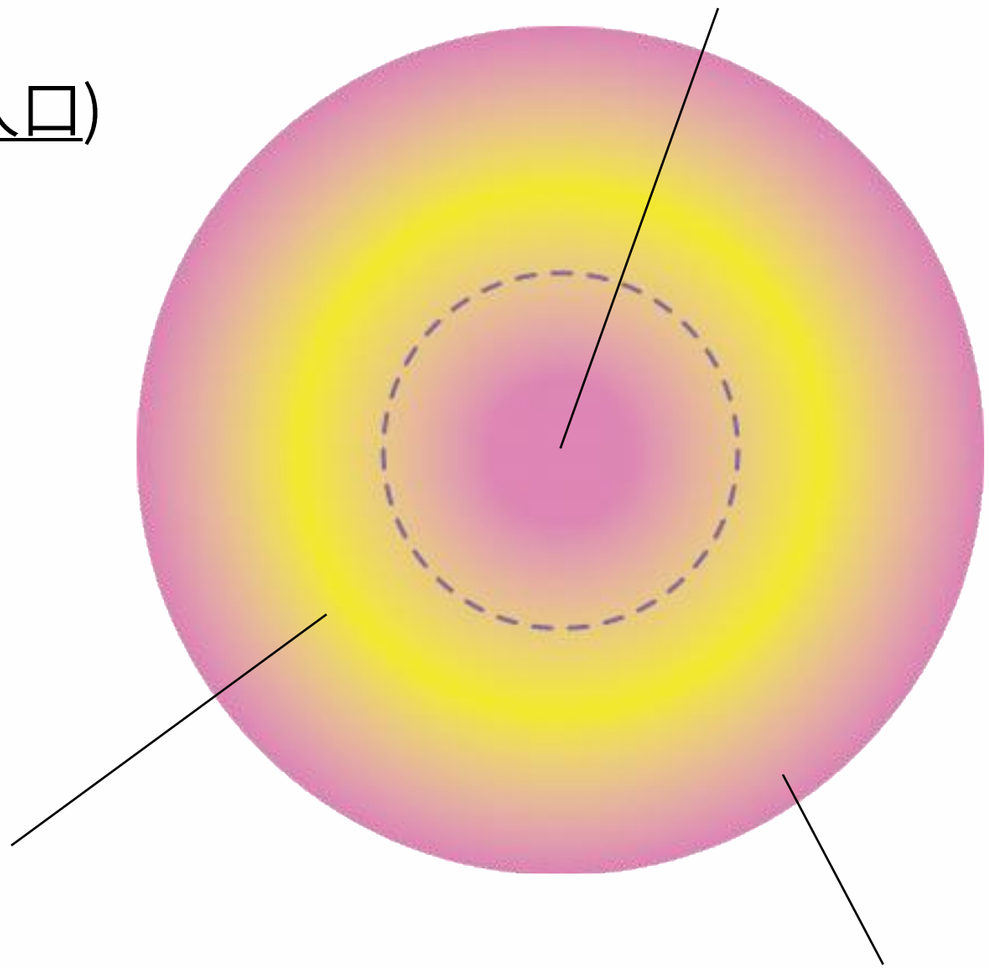
職員

- 必要なデータの抽出
- 取材先のアポイント

冊子のターゲット

1. 市外在住者(特に移住検討者、関係人口)
2. 市内在住者
3. 今治市役所職員
4. 観光客

観光客にはすでに観光スポットがまとめられた冊子やサイトがあるため



ROOTS OF IMABARI

今治を知るための「最初の一冊」

1

CONCEPT

おだやかな瀬戸内海と、その地に根付く日々の暮らし。

今治のいいところは、日常にこそ潜んでいる。

そんな「日常」が垣間見える冊子。

2

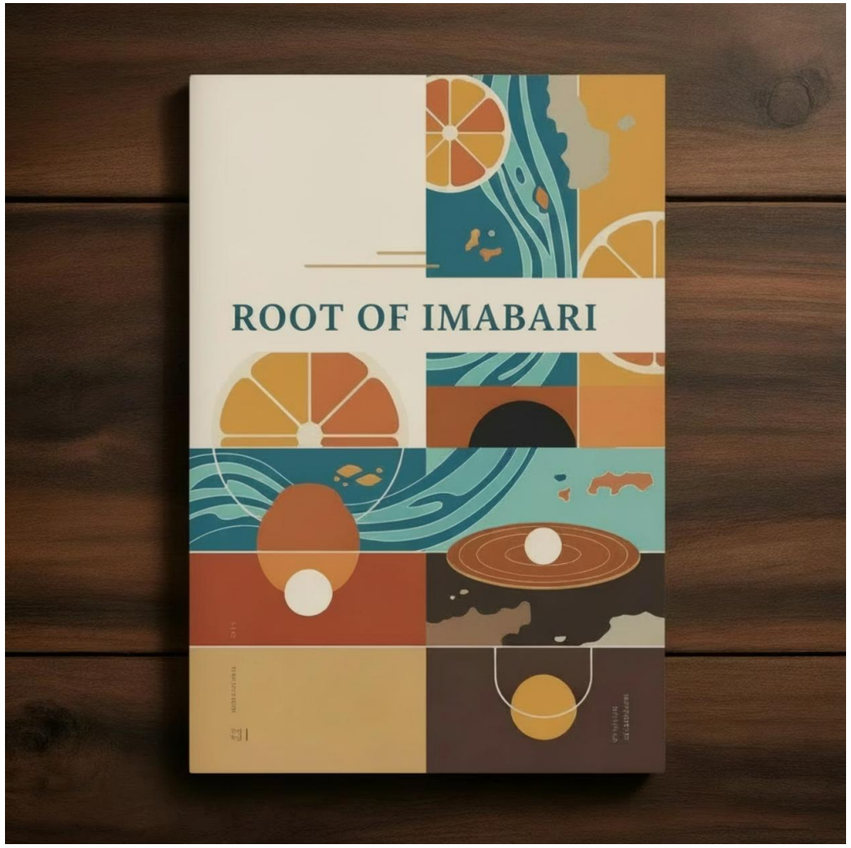
フラッグシップ媒体の創刊

冊子「ROOTS OF IMABARI」(仮称)を年2回発行し、今治の魅力と取り組みを分かりやすく整理・凝縮します。

3

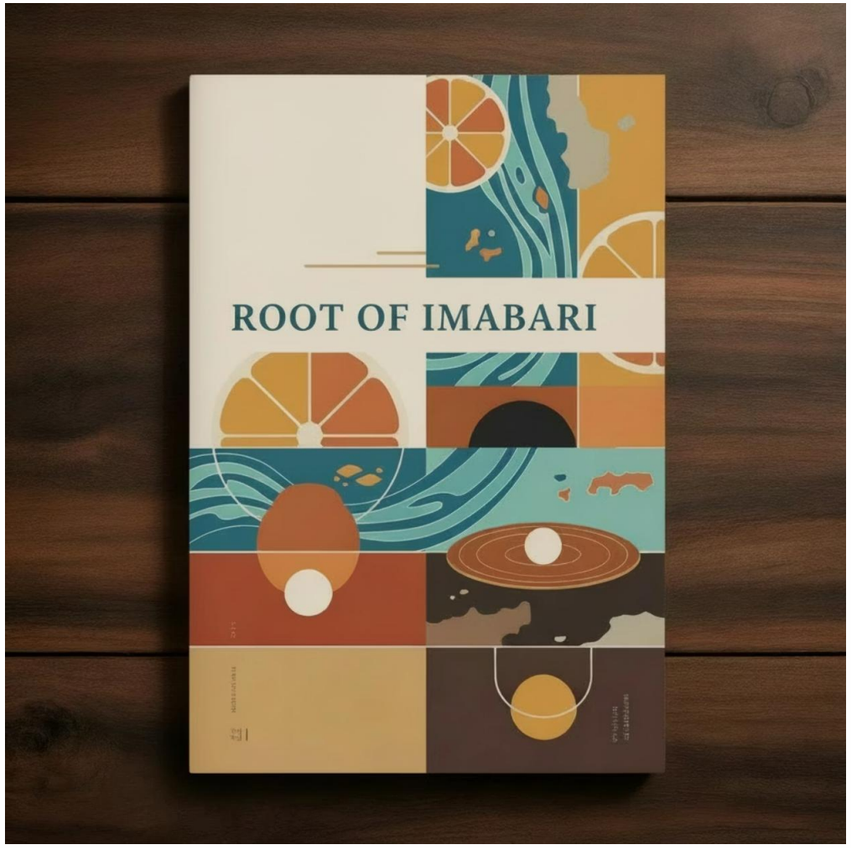
明確な位置づけ

今治を知るための「入口メディア」として、今治の魅力を体系的にまとめた最初の一冊を提供します。



冊子タイトル案

- ROOTS OF IMABARI
- 今治茶飯事
- I ’m home, Imabari.
- IMABARI BASICS



シティプロモーションにおける冊子の効果

STEP 01

シティプロモーション・観光促進の「原本」としての機能

現状として今治のシティプロモーションにおける方向性を示すものがないため、それを冊子として制作することで、今治市民にはもちろん、今治市外の方々にもプロモーションをしていくことができます。また、その後それはSNSやウェブなど多角的に展開していく際の「原本」がとして使用していくことが可能です。

STEP 02

今治を知る偶然性の創出

冊子としてさまざまな場所で配布することで、WEBやSNSではリーチしきれない人にも今治を知ってもらうきっかけを創出。保存性があり、複数回閲覧したり回覧したりなど、冊子ならではのプロモーションも期待できます。

STEP 03

包括的にまとまった「今治」を見ることが可能

WEBやSNSはメディアの特性上、コンテンツを徐々にためていく構造になっているため長期的に運用しながら魅力を発信していく形となりますが、冊子制作では下調べ・リサーチを行い、ページ数などを加味して編集した上で掲載されます。そのため整理された情報として、わかりやすい情報を提供することができます。

冊子によるシティプロモーション好事例

○盛岡という星で（岩手県盛岡市）

https://planetmorioka.jp/

岩手県盛岡市で2018年より始まっている、関係人口促進プロジェクト。
盛岡を一つの「星」に見立て、様々な角度から捉えた盛岡を発信している。

○SとN（佐賀県・長崎県）

https://www.instagram.com/saganagasaki/

地域の魅力に光を当てようと、佐賀県と長崎県で2017年から共同制作している冊子。
観光地だけに特化せず、また県境を意識せず、広い視点で人々の暮らしを掘り下げて、
佐賀と長崎の地域の日常の中にある魅力を紹介しています。

○古河noトリセツ（茨城県古河町）

https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/hisyokouho/citypr/19517.html

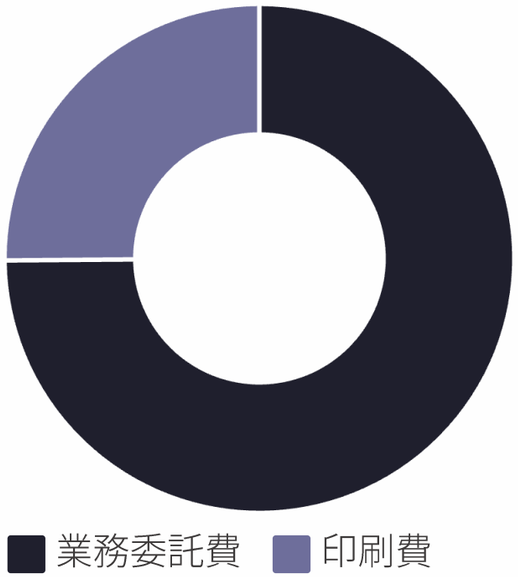
「関東ド・マンナカ」を謳う古河市のシティプロモーション冊子。子育て世代をメインのターゲットとし、
具体的な数字（市の政策など）を盛り込みつつ古河の「ちょうどよさ」をまとめている

○meets!まつら（長崎県松浦市）

https://matsuura-guide.com/25274/

松浦市が年に4回発行している冊子。「地元が地元を誇りに想うきっかけづくり」を編集方針に、
外部の専門家やクリエイター、作家らと一緒になって、地元に眠る歴史やスポットなどを紹介
している。

いまばり暮らしの編集室に必要なコスト



年間投資額：400万円

業務委託費300万円と印刷費100万円の合計で、職員1名の直接雇用コストを下回る予算で実現可能です。

価値提案

3名体制(専門職含む)の通年稼働を実現し、デザイン費も含むパッケージ。単発委託を繰り返すよりも管理コストを大幅に低減できます。

職員1名分以下のコストで、専門性の高い民間人材2名を含む継続的な編集体制を構築できる、極めて高い費用対効果を実現します。

いまばり暮らしの編集室を
内政あるいは完全な業務委託にした場合

内政

- デザインや編集の専門家不在
- 異動がある
- 階級構造

業務委託

- 発注者の意向に沿う
- 担当者の顔が見えない
- 担当者がどれほど地域のこと、今治のことを知っているかはわからない
- リサーチの時間がかなり必要

↓

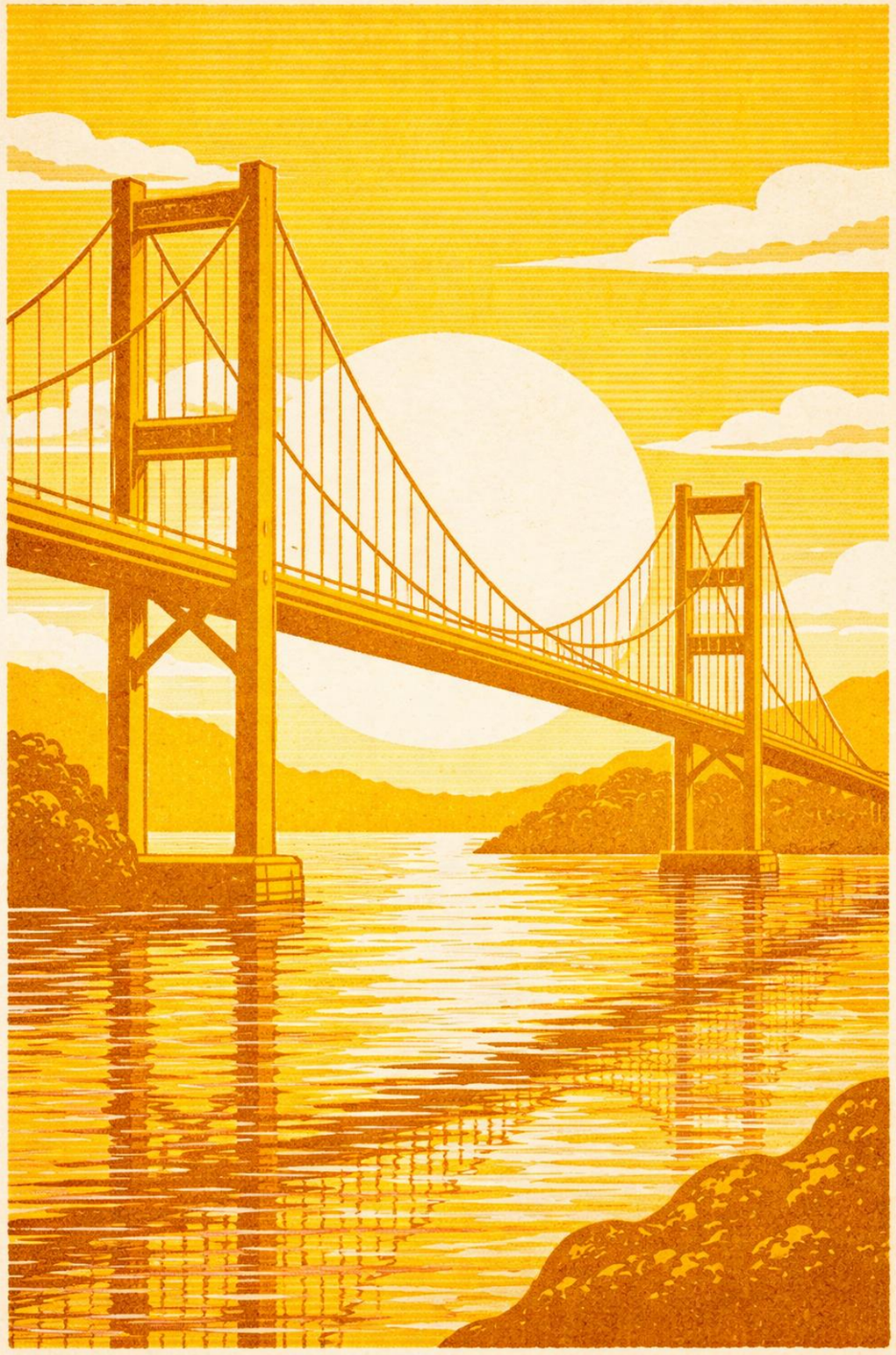
クオリティの維持が難しい

広報はすばらしい

- 自治体あるいは担当課が主体的に取り組んでいる
- 想いがこもっている
- 多くの人が見ていること(チェックしている)
- 継続が前提であること
- 比較しやすい(されやすい)

＋

- デザインの専門性
- 編集の専門性
- 民間のフットワーク
- 市民の視点
- 外からの視点



編集を通して今治をつなぐ

今治市の全体像をクリアに

今治市の取り組みを整理編集し、冊子というアウトプットを通してより分かりやすく多くの人へ届けます。

12の地域を一つの物語へ

2ヵ年にわたり取り組んできた合併20周年記念事業の成果を、一過性のものとせず、 旧12市町村それぞれの個性を大切にしながら、「編集」の力で一つの魅力的な今治の物語としてつないでいきます。

未来へつなぐ

「いまばり暮らしの編集室」は、今治市の情報資産を体系的に分析・編集・蓄積し、次世代へ継承するための、持続可能な編集装置となります。

ご清聴ありがとうございました